

## 生 - 2

教 育 委 員 会 資 料  
令 和 3 年 6 月 2 4 日  
生 涯 学 習 課

### 令和2年度生涯学習課が所管する施設の指定管理業務事業報告について

令和2年3月10日、第7回教育委員会において承認を得た「令和2年度の生涯学習課が所管する施設の指定管理業務」について、下記により令和2年度の事業の実施状況について報告する。

#### 記

#### 1 指定管理施設及び事業実施内容

- (1) 八ヶ岳荘指定管理業務にかかる事業報告の概要【資料1】・・・P2
- (2) 榛名林間学園指定管理業務にかかる事業報告の概要【資料2】・・・P7
- (3) 教育科学館指定管理業務にかかる事業報告の概要【資料3】・・・P12
- (4) 郷土芸能伝承館指定管理業務にかかる事業報告の概要【資料4】・・・P20

## 令和 2 年度八ヶ岳荘指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

## 1 施設利用状況

令和 2 年度利用者数 延 2,526 人

(延数)	区立中学校 移動教室等	青健事業	一般	キャンプ 施設	アウトドア キッチン	合計
令和 2 年度	0 人	0 人	1,932 人	319 人	275 人	2,526 人
令和元年度	6,987 人	1,807 人	7,116 人	785 人	3,328 人	20,023 人
前年度比 (増減数)	0% (6,987 人減)	0% (1,807 人減)	27.2% (5,184 人減)	40.6% (466 人減)	8.3% (3,053 人減)	12.6% (17,497 人減)

総利用者数については、前年度比、17,497 人減（前年度比 12.6%）となった。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4 月から 6 月にかけての約 2 か月及び令和 3 年 1 月から 3 月にかけての約 2 か月半、臨時休業を余儀なくされ、開業中も利用制限を行った。このため、一般利用者数は、前年度と比較し 5,184 人減（前年度比 27.2%）と大幅に落ち込んだ。

また、令和 2 年度に予定されていた移動教室及び※青健事業はすべて中止となった。

## 2 管理運営業務実施状況

## (1) 施設の管理運営

受付業務、食事提供、衛生管理など、運営業務全般において事業計画に基づき適正に運営を行っていた。受付業務では、利用者アンケートにおいて「スタッフの対応の親切さ」の満足度が 92%であり、親切・丁寧な接客に努めていたと評価できる。食事提供・衛生業務については、食品衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理や外部衛生検査、自主管理に努めており、料理については、新型コロナウイルス感染防止対策として朝食バイキングを中止したが、高原野菜や信州サーモンなど地元の食材や季節感を満喫できるようなメニューを提供した。

なお、食品に関する事故の防止については、食物アレルギー対応マニュアルの再確認や、職員研修を通じて周知等、徹底した対策を講じており、食品に関する事故は 0 件であった。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止策として、職員及び利用者の検温の実施、各部屋・設備等のこまめな清掃・消毒、各所（受付・洗面所・トイレ・食堂など）へのアルコール消毒剤の設置、利用者が共同使用する場所（洗面所・浴室ロッカー・下足箱など）は間隔をあ

※ 青少年健全育成地区委員会活動事業

けるようにするとともに各所に説明書きを設置してわかりやすく明示するなどの措置を講じ、感染拡大防止を図るとともに利用者に安心して施設を利用してもらえるような取り組みを行った。

## (2) 施設の維持管理

建物維持管理、備品管理、清掃・環境衛生管理・植栽等の維持管理、設備保安業務については、通常開業時はもとより新型コロナウイルス感染拡大影響による臨時休業中も事業計画に基づき法定点検、日常点検を適切に実施し、いつでも問題なく稼働できるよう努めた。また、設備マニュアルの作成や定期的な設備運転研修を実施することで、スタッフの指導・育成を行い、設備の安定した正常な稼働を遂行した。また、関係法令や個人情報保護取扱規準等を順守した。

施設・設備の修繕工事は、必要性のある修繕を精査し、計画書の範囲内で行われていた。その他、消防設備保守点検や建築設備定期点検などの日常点検で異常の発見に努め、補修等を迅速に対応するなど、全体を通して、良好な維持管理がされていた。

このほか、新型コロナウイルス感染拡大の影響による臨時休業中は、日常業務では行えない箇所の点検や清掃を実施したほか、施設周辺整備を行い、より安全な施設の整備に努めた。

## 3 利用者サービスの向上

### (1) 利便性の提供

宿泊室に小型冷蔵庫や電気ポットを設置し、利用者がより快適な時間を過ごせるよう配慮した。また、食堂にジュースサーバー及びコーヒーマシンを配置し、コーヒーやウーロン茶、オレンジジュース等を無料で提供するサービスを実施した。

その他、小淵沢駅及び富士見駅等との施設間や富士見高原スキー場までの送迎の実施や、子連れや介護入浴等のための小浴室貸切使用等、利用者の目線に立った対応を実践した。また、新型コロナウイルス対策として、マスクを忘れてしまった利用者またはマスクが汚れてしまった利用者に対し、無償でマスクを提供した。

### (2) アンケートの実施

利用者アンケートを実施し、利用者からの意見・要望等に対して、対応方法を検討し、改善に取り組んだ。

### (3) 施設のPR

施設のリニューアルオープンに伴い、ホームページを見やすいデザインに刷新しており、写真や画像を多く掲載し施設の魅力が伝わるよう努

めたほか、空室案内や予約フォーム等、必要な情報をわかりやすく表示した。

#### 4 管理運営経費の収支状況

##### 《収入》

項 目	予算額	決算額
委託料	円	円
補償金	円	円
施設使用料	円	円
食事料金	円	円
合 計	円	

##### 《支出》

項 目	予算額	決算額
人件費	円	円
食材費	円	円
維持管理費	円	円
修繕・工事費	円	円
本社経費	円	円
合 計	円	円

##### 《差引》

項 目	予算額	決算額
差引（利益）	円	円

##### （1）収入

収入については、予算額に対し決算額は、円減の％であった。新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う臨時休業及び感染拡大防止策としての利用制限等による利用者数の大幅な減少により、施設利用料及び食事料金の収入が激減した。

なお、移動教室及び青健事業が中止になったことから、これにより未履行となった委託料について、指定管理者と協議の上、円が区に返還された。また、新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業に伴い、休業期間中の施設利用予定者分の施設使用料等について、区より補償を行った。

## (2) 支出

支出については、予算額に対し決算額は 円減の %であった。収入と同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う利用者数の大幅な減少により食材費が激減したほか、維持管理経費・人件費も減少した。

## 5 自主事業の実施状況

令和2年度は、例年好評を得ている、天体観測教室や変わり湯、スキー教室・ツアー、クリスマスディナーショーなどの事業が計画されていたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、全事業が中止となった。

## 6 所管課の評価等

## (1) 評価

- ① 施設の維持管理については、保守点検や清掃、個人情報の適切な管理を含む通常の受付業務等全般において、年度協定どおり適切に行われている。
- ② 利用者の意見・要望等については対応を検討し改善に努めている。利用者アンケート調査の結果では、施設全体の満足度 95%、食事内容の満足度 90%、職員対応の満足度 92%と良好な評価を得ている。
- ③ 収支状況においても、協定書及び事業計画のとおり適正な管理運営が行われていることを四半期毎の履行確認やモニタリング調査の際に確認している。
- ④ 新型コロナウイルス感染防止対策については、感染拡大を防止するとともに利用者に安心してもらえるようハード面・ソフト面ともにあらゆる対策を講じている。

## (2) 今後の課題

## ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

これまで、さまざまな新型コロナウイルス感染防止対策を実施し運営してきたところではあるが、今後も引き続き感染拡大防止策を徹底するとともに、利用者への丁寧な説明や館内表示の充実、取り組み内容のホームページへの掲載等、利用者が安心して利用できるような取り組みを継続していくことが必要である。

## ② 青少年健全育成への寄与

区立中学校の移動教室等青少年健全育成を目的とした支援については、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、安心安全に施設利用ができるようにしていく。そのうえで、利用者の意見等も取り入れながら、よりよい活動ができるよう運営改善に取り組んでいく必要がある。

## ③ 広報活動の充実

新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅に落ち込んだ利用者数を今後回復させていくための広報活動が必要である。感染拡大による外出自粛の意識が広がっているなかで、施設の魅力に加えて感染拡大防止策の取り組みをいかに外部に発信していくかが重要である。積極的な広報活動が困難な社会情勢にあつて、さまざまな媒体・方法等を検討し、状況に応じて効果的な広報活動を行っていく必要がある。

## ④ サービス向上策

大規模改修工事を実施したことで、宿泊室や野外施設の魅力が向上した。今後は、更なる施設の発展に向けてソフト面の充実を目指していく必要がある。従業員すべてが、お客様に対し、もてなしの心を持ち、心のこもったサービスを提供すると同時に、これまでにない新たな事業を実施していくことで、利用者の増加と新規顧客獲得はもちろん、リピーターを確保し、八ヶ岳荘のさらなる魅力の発信に取り組む必要がある。

なお、令和3年度より新指定管理者に業務が引き継がれた。新指定管理者の新たな視点も取り入れつつ、サービス向上を目指していく。

## 令和 2 年度榛名林間学園指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

## 1 施設利用状況

令和 2 年度利用者数 延 546 人 前年比 4.8%  
 うち有料利用者数 537 人 前年比 25.0%

(延数)	区立小学校 移動教室	青健事業	社会教育団体 (少年団体等)	一 般	合 計
令和 2 年度	0 人	0 人	175 人	371 人	546 人
令和元年度	8,571 人	635 人	1,194 人	1,071 人	11,471 人
前年比 (増減数)	0% (8,571 人減)	0% (635 人減)	14.7% (1,019 人減)	34.6% (700 人減)	4.8% (10,925 人減)

総利用数については、令和元年度と比べ、10,925 人減となり、前年比 4.8%であった。減少の要因として、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、区の方針にて令和 2 年 4 月～6 月、令和 3 年 1 月～3 月にかけて臨時休館を行ったこと、また、利用の自粛やキャンセルの発生が挙げられる。区立小学校移動教室、青健夏季キャンプ等の区主催事業については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、全行程が中止となった。社会教育団体についても、子ども会・婦人会・PTA 団体など定期的な利用のあった団体の利用自粛が影響し、利用者数の大幅減の要因となった。

## 2 管理運営業務実施状況

## (1) 施設の管理運営

施設設備、食事提供、職員対応など、事業計画のとおり適正に管理運営が行われた。施設設備については、通常清掃に加えて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため消毒作業が行われ、アンケートでも清潔な施設の維持管理が評価された。食事提供においては、地元の新鮮な食材を使用する等、安全かつ栄養バランスに配慮した食事メニューを提供するとともに、利用者が温かい状態で食べられるよう提供時間を工夫する等のサービスが行われた。職員対応については、職員による利用者への声かけ等、心のこもった接遇が評価され、アンケートにおいても満足度 99%と高い評価が得られた。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、利用者に対し電話受付時に検温・体調チェックの依頼、体育館の器具・遊具の使用制限や、館内・食堂等の使用制限と消毒の実施等を行い、密閉空間・密集場所・密接場面を作らない対

策を実施した。利用者に対しても、申込・来館の際に館内での手指消毒、マスクの着用といった感染対策への協力依頼を行った。

## (2) 施設の維持管理

施設の維持管理について、施設の内外ともに設備保守点検や清掃、通常の受付業務等全般において、適切に行われた。故障・不具合が発生した場合は、速やかに対応策を含めた報告書が提出され、緊急性や重要度を考慮しつつ適切に維持管理されていた。

事業計画で予定した煙感知器交換工事や備品の購入は、計画通り実施された。その他の不具合については、施設の安全・円滑な管理運営に関わるかを精査し、優先順位をつけて、修繕・工事費( )の予算をもとに修繕を進めている。令和2年度は、上記交換工事と備品購入に加え、調理場冷蔵庫交換工事や、第二宿舎入口タイル破損部分補修工事などの計15件の工事を実施した。その他、消防設備保守点検・防火設備保守点検や、3年に一度実施する建築物定期点検など法定点検において異常の発見に努めている。

また、臨時休館期間中は、施設の内外において植栽作業や施設の塗装といった景観の改善・整備を行うと同時に、利用者の受け入れを再開する際、感染対策のための消毒液等の設置を進めるなど、通常業務外の作業が行われた。

## 3 利用者サービスの向上

### (1) 利便性向上事業

Wi-Fi 接続サービス、榛名湖バス停までの送迎、施設周辺状況の提供、食堂での飲料提供、キャンプファイヤー用の薪販売などによる利便性の向上事業を昨年度より継続して行っている。

利用受付時には、食物アレルギーに関する事前確認を含め、寒冷な施設環境や周辺状況について細かな説明を行い、利用者が安心・安全な利用できるよう配慮していた。冬季利用者に対しては、到着前に部屋を暖める、廊下にストーブを設置するなどの対応を行い、寒冷な施設内で快適な時間を過ごせるよう配慮したサービスを行った。

また、施設内にはエレベーターがないため、特に車いす等障がいのある利用者や、高齢者に対しては、車を横付けできる入口に案内する、館内での移動が行いやすい部屋を優先して割り当てる等、バリアフリー未対応の施設内で、利用者が快適に過ごせるよう意識した細やかな応対が行われている。

### (2) アンケートの実施

利用者アンケートの調査では、施設満足度 96%、食事満足度 95%、職員対応満足度 99%と非常に良好な評価を得ている。アンケートにて寄せられた利用者



の意見・要望には極力応えられるよう改善に努めている。

施設については、「老朽化がみられるが、清潔感がある」「カビ臭がする」といった意見が例年寄せられている。カビ臭については、除湿剤を各部屋に設置するなど引き続き対策を行っている。また、今年度は通常清掃に加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めた清潔な施設維持に対して感謝の声が多く寄せられた。従業員の応対については、アンケートの評価が極めて高く、「親切で丁寧な応対」と評価されている。食事については、感染対策（消毒作業、おかわりのセルフサービスの廃止、他団体の施設利用者との距離をとった座席指定等）に加え、利用者の食事量を配慮した配膳等、柔軟な対応が評価された。

#### 4 管理運営経費の収支状況

##### 《収入》

項 目	予算額	決算額
委託料	円	円
補償金	円	円
施設使用料	円	円
食事料金	円	円
合 計	円	円

##### 《支出》

項 目	予算額	決算額
人件費	円	円
食材購入費	円	円
管理運営経費	円	円
修繕・工事費	円	円
本社経費	円	円
合 計	円	円

##### 《差引》

項 目	予算額	決算額
差引（利益）	円	円

##### （1）収入

収入合計については、予算額に対し決算額が 円減の %であった。緊急事態宣言による長期期間の臨時休館や、都県またぎの自粛要請が影響し、利用者数の減に伴い、施設使用料と食事料金の収入が見込みより大幅に減少した。

なお、移動教室・青健事業が中止となったことから、事業にかかる費用を未履行分の委託料として、指定管理者と協議の上、合計 円が区に戻入され

た。また、新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館に伴い、休業期間中の施設利用予定者分の施設料料金について、区より補償を行った。

### (3) 支出

支出合計については、予算額に対し決算額が■■■■円減の■■■■%であった。収入と同様、新型コロナウイルス感染症拡大による影響に伴う利用者数の減少により食材費が大幅に減少したほか、管理運営経費、人件費についても減少した。

## 5 自主事業の実施状況

事業計画においては、「ホテル観賞とバーベキュー(2回)」「収穫体験とバーベキュー(2回)」「料理教室(2回)」の3事業(計6回)を企画していたが、「ホテル観賞とバーベキュー」「料理教室」は中止とし、「収穫体験とバーベキュー」のみ感染対策を行い、募集人数を減らした上で3回の実施とした。各回30名で募集し、86名(参加率95.6%)の参加があった。

悪天候のため、園庭でのバーベキューの中止、梨園での梨の試食ができない等問題が発生したが、園庭の代わりにピロティーでバーベキューを実施する、施設に戻り試食を行う、といった柔軟な対応を行った。感染対策を行った上でのイベント運営や、利用者への個別対応も含めた接遇が評価され、参加者からのアンケート調査では、満足度95.9%と非常に高い評価を得られた。

## 6 所管課の評価等

### (1) 評価

- ① 施設の維持管理について、施設の内外ともに設備保守点検や清掃、通常の受付業務等全般において、計画書のとおり適切に行われた。工事・修繕についても緊急性や重要度を考慮しつつ迅速に対応していた。緊急事態宣言中の長期休館など、例年と大幅に異なる対応が求められる中、通常業務に加え、感染症対策の実施、休館期間を利用した施設の景観の改善等、柔軟な運営業務が行われた。
- ② 利用者アンケート調査においては、施設満足度96%、食事満足度95%、職員対応満足度99%と非常に高い評価を得ている。アンケートで寄せられた意見・要望は、施設・ホームページにて公開され、随時対応・改善に努めている。
- ③ 収支状況においても、適正な執行が認められ、全体を通して協定書及び事業計画書のとおり適正な管理運営が行われていた。
- ④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策については、施設の消毒作業、消毒液の設置等、衛生環境の維持を前提に、利用者受け入れの際、事前説明を含めた感染予防対策への協力依頼が行われた。

#### (4) 今後の課題

##### ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止策について

感染症対策の継続をしたうえで、引き続き心のこもった接客サービスを維持してもらうよう依頼する。今後、感染症の拡大が収束していく場合、施設の使用制限の緩和や業務内容の調整について管理者と検討しつつ、感染対策を継続する。利用者には、利用の制限について理解と協力を求めるため、申し込み時の丁寧な事前説明と、現場対応を行うことで、感染予防の徹底した運営を行っていく。

##### ② 青少年健全育成への寄与

令和3年度においては、移動教室など青少年健全育成に関する事業にあたり、行程作成の協力等の通常業務に加え、施設における感染症対策のオペレーション作成と実施を求める。宿泊室の利用可能人数を制限、食堂のテーブルでの距離の確保といった、集団行動の中でも過密状態を避けるための運用を徹底するため、事前の学校等運営者と綿密な打ち合わせや情報共有を依頼する。

##### ③ 施設設備の老朽化への対策

施設が改築後36年経過し、老朽化により設備の故障や構造物の損傷が発生している。施設の運営において重要な設備を優先しつつ、寒冷かつ湿度の高い気候において、利用者が安全で快適に過ごせるよう設備環境の改善を図っていく。今後も指定管理者と連携して、建物・設備の点検整備により改修必要箇所を把握し修繕を進めていく。

## 令和 2 年度教育科学館指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

## 1 施設利用状況

	入館者数	プラネタリウム観覧者数
令和 2 年度	66,704 人	6,858 人（うち有料投影 5,388 人）
令和元年度	203,126 人	44,455 人（うち有料投影 23,191 人）
前年比 (増減数)	32.8% (136,422 人減)	15.4% (37,597 人減、うち有料投影 17,803 人減)

入館者数は、136,422 人の減（前年度比 32.8%）となった。

最も大きな要因は、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）拡大に伴う緊急事態宣言の影響で 4 月から 5 月まで休館したこと、6 月の再開館以降もコロナ対策のため各事業において、中止または大幅に定員制限を設けて実施したことによる。

プラネタリウム観覧者数は、37,597 人の減（前年度比 15.4%）となり、こちらもコロナによる投影中止と、再開後もコロナ対策のため大幅に定員を制限したことが要因である。

## 2 管理運営業務実施状況

## (1) 施設の管理運営

令和 2 年度は、指定管理 3 期目の 4 年目である。管理運営業務全般については、協定・事業計画を基に、必要に応じて区とコロナ対策を協議・実施しながら、適正に行われていた。2 年度に実施を予定していた事業の実施結果については、下記①～⑦のとおりである。

なお、各事業の実施にあたっては、コロナ対策として、入館時の手指消毒・検温実施、マスク着用の義務化、プラネタリウム座席・展示物・物品等の随時消毒、施設内の適宜換気、通常時より定員を制限する等を徹底して実施した。

## ① 校外教授

区立小学校 51 校の 4 年生及び天津わかしお小学校の 3 年生から 6 年生の移動教室として、プラネタリウム等による天文学習及び理科実験学習を実施する予定であったが、コロナの影響により中止とした。

また、移動教室で来館できない学年を対象に、学校に出向き理科教育の補助をする「小中学校出前授業」は、4 校 9 件実施で前年度比 17 件減となった（前年度：16 校 26 件）。減の要因は、コロナ拡大による申し込み数の大幅減や、緊急事態宣言に伴う中止である。

## ② 科学展示

地下の科学展示室はコロナ拡大防止のため、令和2年2月29日から引き続き閉鎖としたが、10月8日から、展示室公開前にすべての機器の点検を行い、動作確認、清掃を行った上で、下記の対策を設け再開した。

- i 感染リスクが高いと考えられる展示物は使用中止。
- ii 人数制限50名、開放時間90分（平日は1回、土日祝日は2回）、土日祝日は事前予約制として公開。
- iii 公開終了後は、展示物の消毒を行い、換気を実施。
- iv 利用代表者の氏名と連絡先を1か月保存。（区保健所の方針に合わせ、令和3年2月にこの運用は終了）

このほか、「学研の図鑑 LIVE」パネルや恐竜化石の展示（1階ホール）、昆虫標本や爬虫類の展示（2階）、空きスペース・期間を利用しテーマに沿ったパネル展「ミニ科学展示（1階ホール）」や、科学に関連した写真の展示を行う「科学写真展（2階）」などの各種展示を、6月の再開館以降実施し、来館者の好奇心に応えた。説明パネルなども随時更新し、展示全体の充実を図った。

## ③ 科学教室

通常時より、定員を半分とし、密を避けて実施した。

リモコンロボット、ちりめんモンスターを探せ、レンズでおもしろ工作、サザエのジオラマランプを作ろう等、子どもたちの興味を引く実験・工作教室を15回実施した。15回中全てが応募者多数により抽選となった。参加者数は延べ151人であった。（前年度：15回実施、参加者数延べ282人）。コロナによる中止は3回であった。

年1回多摩川河川敷で実施している化石発掘体験（自然体験教室）は、イベント定員20組の定員に対して、123組の申し込みがあり、大変な人気であった。（昨年度は同じ定員で31組62人の申し込みであった）

## ④ 天文（プラネタリウム等）

令和2年6月まではコロナ対策のため完全に投影を中止。

7月5日から定員を30/197名に制限し、事前予約制にして投影を再開した。

7月5日～8月30日まで投影時間を短くし、無料で投影を実施した。

9月から投影時間を通常に戻し、有料投影を再開した。

10月からは定員を47/197名へ拡大した。

再開後、実施した事業は以下のとおり。

- i 一般向け投影
  - 1か月ごとにテーマを変えて7月から毎日実施した。
- ii プラネタリウム番組
  - アニメ番組を2番組、土日祝日及び学校の長期休みに投影した。制作

会社から作品のジオラマを借用しプラネタリウム入口付近に展示するといった工夫を行い、多くの来館者の関心を引いた。

iii 特別投影

ハロウィンやクリスマスなど、季節に応じた投影を 4 回実施した。

iv ヒーリングプラネタリウム

癒しをテーマとした投影を 3 回実施した。

v お話読み聞かせ会（プラネタリウム d e おはなし会）

ドームに絵を映し絵本を朗読する事業。幼児はマスク着用が困難で長く声を発しないことが難しいため、他の幼児向け投影は中止せざるを得なかったが、本事業は家族単位でくっつき、他の家族とは距離を取るといった席のレイアウト変更をする準備期間があることから実施した。（4 回）

vi 臨時団体投影

学校等の個別の要望に応じて、投影を 4 回実施した。

中止とした事業は以下のとおり。

i ほしぞらであそぼ

幼児とその親を対象とした事業。毎週水曜及び土日祝に実施と開催頻度が高いため、お話し読み聞かせ会のような席のレイアウトの変更が時間的に困難なため、中止とした。

ii 星を見る会

プラネタリウムでの星座解説の後に天体望遠鏡を使い、実際の星を観望する事業だが、レンズを介したコロナ感染リスクを考慮し、中止した。レンズカバーを作成し、令和 3 年 1 月頃から再開を試みたが、緊急事態宣言発令により断念した。

iii プラネタリウムコンサート

生演奏会と星空を融合させた事業。大幅な席数制限に伴う収益の観点から中止とした。

iv 幼児団体投影

例年は小学校移動教室受入れのない期間（7 月上旬～7 月中旬、2 月下旬～3 月上旬）に幼稚園・保育園等を対象に事前申込制で行っているが、コロナ感染リスクが高いため中止とした。令和 3 年度は各種制限を設ける等して実施する予定。

⑤ パソコン

小中学生向けに、レゴマインドストーム（ロボット）やプログラミングソフトを使用したプログラミング教室を 32 回実施し、参加者数は延べ 155 人であった（前年度：37 回 322 人）。コロナによる中止は 12 回であった。

また、平成 30 年度から開始したファーストレゴリーグ（9 歳～16 歳の青

少年を対象とした世界最大規模の国際的なロボット競技会) 講座は、チームを組んで大会へ参加・入賞を目指す講座で、メンバー募集の説明会を2回行った結果、参加希望者が1人だったため、中止とした(前年度: 32回、延べ454人)。

また、大人向けプログラミング教室を1回実施。5人定員で満員であった。

幼児向けのプログラミング教室はコロナにより2回とも中止であった(前年度も2回とも中止)。

#### ⑥ イベント

平成27年度よりゴールデンウィーク、正月休み、春休みなどを中心に開催していた「サイエンスフェスタ」(参加者延べ890人、前年度1,288人)は、コロナに伴う休館などで実施できない時期もあったが、感染対策を講じた上で可能な限り実施した。(計21日間実施、前年度計36日間実施)

なお、サイエンスフェスタと同じ日程で開催していた「100円ワークショップ」(前年度参加者延べ6,967人)は不特定多数が集う事業となるため、令和2年度は年間を通して中止とした。

あいキッズや区内団体の要望に応じて出張し、サイエンスショーを行う「出前サイエンスショー」はコロナ禍の中でも6件申込があったが、4件が中止となった。(実施件数2件、前年度14件)

中央図書館との連携事業は、11月15日に「絵本の読み聞かせ会と科学工作」(保護者含めて25人参加)、中央図書館が平和公園に移転し、隣接するようになってからは、中央図書館1階エントランスで「春休みサイエンスフェスタ」を紹介した。

「板橋区民まつり」及び「常盤台地区のさくらまつり」への参加は各まつり自体がコロナにより中止となった。

エコポリスセンター・熱帯環境植物館・リサイクルプラザとの夏休み連携事業「4館スタンプラリー」もコロナにより中止となった。

#### ⑦ 特別イベント

夏期イベントは、「センスをみがけ! 運動のひみつ」というテーマで企画展及び夏休み期間にプラネタリウムで人気アニメ番組の投影を予定していたが、コロナにより中止とした。

いたばし自由研究作品展との連動を意識した、自由研究のヒントになるようなワークショップ「夏休み自由研究フェスタ」は、小学校の夏休み期間が短く宿題に自由研究が出されない可能性を考慮し、「夏のサイエンスフェスタ(8月1日~8月23日)」に変更して実施した。(参加者計684人、前年度〈自由研究フェスタ〉計912人)

令和2年度は夏期イベント中の来館者が7,766人で前年度の49,512人と比べると41,746人・84.3%減となった。要因はコロナによる企画展及びプラネ

タリウム夏休み用番組の中止による。

8 回目の開催となった「いたばし自由研究作品展」は、小・中学校の夏休み期間が通常よりかなり短く、作品が集まらない事を危惧したが、応募作品数が 77 点（昨年度 144 点）と前年の半数程度の作品が集まり、例年通りの流れで実施することができた。優秀作品については、令和 3 年 1 月 18 日～1 月 22 日に本庁舎 1 階イベントスペースにて展示を行った。

また、最優秀賞及び優秀賞の 2 作品は全国規模のコンテスト、全国児童才能開発コンテスト（公益財団法人才能開発教育研究財団主催）の科学部門に推薦し、2 作品とも「財団科学賞」を受賞した。

	元年度	2 年度	前年比（増減数）
夏期イベント入館者数	49,512 人	7,766 人	15.7%（41,746 人減）
いたばし自由研究作品展応募数	144 作品	77 作品	53.5%（67 作品減）

## （2）施設の維持管理

施設・設備の保守点検業務については、再委託業務を含め年度協定、仕様書及び事業計画書のとおり適切に実施した。また、小破修理・工事については、「屋内消火栓設備部品交換（          円）」や「2 階女子トイレ洋式化 2 箇所洋式化工事（          円 ※東京都の補助金を申請し、左記金額の 2/3 は区の特定財源として充当された）」など、修繕工事を 15 件実施。          円の修繕工事の予算内で計画的に執行し、かつ緊急性の高いものは迅速に対応した。

## 3 利用者サービスの向上

### （1）広報

ホームページや広報いたばし、科学館ニュースといった従来の広報手段に加えて、SNS（フェイスブック、ツイッター、Instagram）を利用し、若年層への施設や事業の広報を行った。

『月刊 Kacce』等の各タウン誌、インターネット掲載においては、事業紹介や施設 PR を行い（年間 32 件）、周知を図った。

また、令和 2 年度はコロナ禍で事業が中止になる事が多かったため、代わりに科学に関する動画を計 12 本作成し、YouTube の区公式チャンネル及び区教育委員会チャンネルへ掲載した。

さらに、子どもたちがおうち時間を楽しめるよう、自宅でできる実験・工作・観察や科学にまつわる記事を掲載する特設サイト「おうち de 教育科学館」を新設し、36 本の記事を掲載した。

### （2）アンケートの実施

プラネタリウム投影と科学事業において、利用者アンケートを実施した。プ



ラネタリウムは「大いに満足」「満足」の割合が 96.15%、科学事業は 99.05%と高く、指導員の親しみやすい解説と丁寧な対応が評価されている。

#### 4 管理運営経費の収支状況

##### 【収入】

項 目	予算額	決算額
委託料	円	円
国庫補助金	円	円
プラネタリウム観覧料	円	円
施設貸出使用料	円	円
各種教室参加費等	円	円
コンサート入場料等	円	円
合 計	円	円

##### 【支出】

項 目	予算額	決算額
人件費	円	円
維持管理経費	円	円
事業運営費	円	円
修繕・工事費	円	円
本社経費	円	円
合 計	円	円

##### 【差引】

項 目	予算額	決算額
差引（利益）	円	円

##### (1) 収入

収入については、予算額に対し決算額が %であった。

減の要因は、コロナによるプラネタリウム観覧者数減に伴う観覧料の減などである。

なお、委託料については、コロナにより未履行となった事業分を年度終了後に区と指定管理者で協議し、清算後、区が返還を受けた。

(未履行返還金額 円 ※上記委託料決算額は、返還後の金額)

##### (2) 支出

支出については、予算額に対し決算額が %であった。コロナにより大規模な夏イベントやプラネタリウムコンサートを中止したことが主な要因である。

## 5 自主事業の実施状況

科学館の充実した設備を利用し、指定管理者の科学教育ノウハウを駆使した本格的な体験型学び事業「実験科学塾」(2年度の実験題材:水のふしぎでわくわく水遊び、電気回路入門、生物の設計図 DNA を取り出そう等)では、科学に興味をもつ小学生を対象に、2学年ごとの3コース(定員各12人〈コロナ対策のため例年の半分の定員で各回実施〉)、会員制で実施し、コロナにより中止になる時期もあったが、可能な限り、本格的な科学学習の機会を提供した。(延べ受講者数 942 人、前年度 2,119 人)

他にも、他企業とのコラボや、大人の科学教室、上級者プログラミング講座(ロボレス大会)等を予定していたが、これらはコロナにより中止となった。

## 6 所管課の評価等

### (1) 評価

① 指定管理3期目の4年目であり、過去13年間で培った事業運営のノウハウを活かしつつ、コロナの感染対策を講じながら事業を実施した。

各事業実施においては、例年どおりの方法から可能な限り接触を避けた内容に変更し、リハーサルも入念に行った上で実施した。

なお、各種講座等の科学事業やプラネタリウムの満足度はいずれも95%を超えていることから、変更後の内容についても来館者から評価されていたと考えられる。

② 休館や事業が中止となった部分の代替業務として、コロナ禍でも自宅で楽しめる科学に関する動画や、特設サイトを新設し科学に関する記事等を作成し発信するなど、柔軟に対応したことは評価できる。

③ 施設管理については、保守点検も計画的に実施され、修繕工事が必要な案件にも迅速に対応しており、年間を通して円滑な運営がなされたとみる。

入館者への手指消毒・検温の実施、マスク着用の義務化、プラネタリウムの座席・展示物・物品等の随時消毒、施設内の適宜換気、各事業定員の削減など、コロナ対策も入念に実施しており、全体的に安全な施設管理ができていたと評価する。

### (2) 今後の課題

#### ① コロナ禍での運営について

引き続き感染対策を講じながらの運営となるが、現状に留まることなく、さらに安全に、さらに科学の楽しさ・不思議さを体験できるような運営方法を考え実施していく。また、令和2年度はコロナにより中止となった小学校移動教室は、令和3年度は科学教室などで培った感染防止対策のノウハウを活用し区と協議しながら実施を目指す。

② 施設の老朽化等について

設備機器の経年劣化や老朽化による故障の発生リスクは依然として高まっており、これまでの部分的な小破修理では対応できなくなっている。また、プラネタリウムについても、現在延命措置を行っているが、故障時には代替品が生産終了により存在しない可能性もあるため、運用の限界も近づいている。これらへの対応については、令和3年度から4年度に実施予定の教育科学館のあり方検討会で全体最適の観点から検討を進めて行く。

## 令和 2 年度郷土芸能伝承館指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

## 1 施設利用状況

	利用件数	利用人数
令和 2 年度	574 件	6,628 人
令和元年度	908 件	15,143 人
前年比（増減数）	63.2%（334 件減）	43.7%（8,515 人減）

## 【利用件数内訳】

単位：（件）

	集会室			練習室			合計
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	
令和 2 年度	31	89	49	54	169	182	574
令和元年度	47	108	103	123	264	263	908
増減	-16	-19	-54	-69	-95	-81	-334

令和 2 年度は前年度に比べ、全体の利用件数が 334 件減少した。主な要因としては、新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言に伴い、令和 2 年 4 月 8 日～5 月 31 日を休館、令和 3 年 1 月 8 日～3 月 21 日を夜間貸出中止としたことがあげられる。これに加え、施設利用を自粛する団体が多数あり、利用件数の減少につながったものと考えられる。

（参考） 令和 2 年度末 利用登録団体 59 団体  
令和元年度末 利用登録団体 56 団体

## 2 管理運営業務実施状況

## (1) 施設の管理運営

令和 2 年度は、5 年間の指定管理期間の 1 年目にあたる。令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、施設の休館や利用制限等を設けての運営となった。管理業務全般については、基本協定・年度協定通りに実施され、施設貸出、設備の保守・修理、企画・運営協議会等各種会議への出席等、適切に施設の管理運営が行われている。

指定管理者本社と現地、また、教育委員会との間においても密な連携をとるなど、適切な施設管理・運営に努めている。

## (2) 施設の維持管理

建築物環境維持管理、清掃、植栽、樹木等の維持管理、保安・警備業務については、仕様書どおり法定点検、日常点検を実施している。また、これら全般については、建築基準法、消防法、フロン排出抑制法等の関係法令や個人情報保護に関する取扱基準等を順守し管理を行っている。

なお、令和2年度の小破修理・工事については、「1F・地下誘導灯修繕（          円）」「地下練習室サッシ工事（          円）」「エアコン室内外機取替（          円）」「空調修繕（          円）」「階段壁紙貼替（          円）」「地下練習室スピーカー不具合調査（          円）」の計6件（          円）を実施した。

その他、区費にて「自動火災報知設備改修工事（          円）」「北側雨樋修繕工事（          円）」を実施した。

令和2年度の小破修理・工事費用は、区費の支出とあわせて          円となった。

## 3 自主事業の実施状況

施設の設置目的の範囲内において、施設の価値を高め、利用者層拡大を図る等の目的で、指定管理者の自己資金と創意工夫による自主事業を実施している。

令和2年度は、当初、年間12回実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえて急遽中止とせざるを得ない場合もあり、計画通り実施ができなかった。

開催した2回については、利用登録団体以外の地域住民の方が郷土芸能伝承館へ足を運ぶきっかけとなり、施設の周知を図ることができた。

	開催日	時 間	内 容	定員	参加人数	参加費
1	12月5日	① 14:00～15:00 ② 15:00～16:00	クリスマス クラフトを つくろう	36人	35人	350円
2	12月19日	14:00～16:00	傘のプラネ タリウムを つくろう	36人	24人	1,500円

## 4 利用者サービスの向上

(1) これまで、毎月1日に施設利用の一斉受付を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、三密回避の観点から、令和2年5月より郵送による受付を実施している。現在では、郵送受付が定着し、予約のために施設

に足を運ぶ必要がなくなったため、利用者より好評を得ている。

- (2) 施設がバリアフリー化されていないため、障がい者や高齢者が利用する場合には、職員が積極的に声かけやサポートを行っている。利用者アンケートでは職員の対応について、満足及びやや満足の回答が約 86%を占めた。

## 5 管理運営経費の収支状況

### 【収入】

項 目	予算額	決算額
指定管理料	■■■■円	■■■■円
施設使用料	■■■■円	■■■■円
補償金	■■■■円	■■■■円
合 計	■■■■円	■■■■円

### 【支出】

項 目	予算額	決算額
人件費	■■■■円	■■■■円
施設・設備維持管理費	■■■■円	■■■■円
修繕・工事費	■■■■円	■■■■円
備品購入費	■■■■円	■■■■円
ホームページ制作・運用費	■■■■円	■■■■円
保険料	■■■■円	■■■■円
租税公課	■■■■円	■■■■円
本部経費	■■■■円	■■■■円
合 計	■■■■円	■■■■円

### 【差引】

項 目	予算額	決算額
差引（利益）	■■■■円	■■■■円

#### (1) 収入

収入については、予算額に対し決算額が ■■■■円減の ■■■■%であった。施設使用料について、利用件数が減少（令和元年度 908 件から令和 2 年度 574 件 334 件減）した。これは新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言に伴い、令和 2 年 4 月 8 日～5 月 31 日を休館、令和 3 年 1 月 8 日～3 月 21 日を夜間貸出中止としたことに加え、施設利用を自粛する団体が多

数あったことによるところが大きいと考える。

(参考 施設利用収入比較)

【30 年度 ■■■■■ 円、令和元年度 ■■■■■ 円、令和 2 年度 ■■■■■ 円】

## (2) 支出

支出については、予算額に対し決算額が ■■■■■ 円減の ■■■■ %であった。減少の理由について、人件費及び水道光熱費の減少があげられる。人件費については、予算額に対する決算額が ■■■■■ 円減の ■■■■ %であった。これは、当初採用を予定していた職員の辞退により、人件費単価が変動したことによるものである。また、水道光熱費については、予算額に対し決算額が ■■■■■ 円減の ■■■■ %であった。これは新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言に伴い、令和 2 年 4 月 8 日～5 月 31 日を休館、令和 3 年 1 月 8 日～3 月 21 日を夜間貸出中止としたことによるところが大きいと考えられる。

(参考)

### ① 人件費比較

【30 年度 ■■■■■ 円、令和元年度 ■■■■■ 円、令和 2 年度 ■■■■■ 円】

※令和 2 年度～指定管理者が変更となっている。

### ② 光熱水費比較

【30 年度 ■■■■■ 円、令和元年度 ■■■■■ 円、令和 2 年度 ■■■■■ 円】

## 6 所管課の評価等

### (1) 評価

- ① 月次報告及び四半期に一度実施する履行確認の結果、施設の維持管理については、保守点検や清掃、通常の受付業務等全般にわたり、区が求める管理基準を満たしている。日々の管理運営についてもサービス水準書の基準を満たせるよう、実行しているものと評価できる。
- ② 利用者アンケートでは、特に職員対応、館内快適性・衛生面が高い評価を得ており、総合的な郷土芸能伝承館に対する満足度も 89%と高い評価を得ている。
- ③ 収支状況においても、適正な執行が認められる。全体を通して協定書及び事業計画のと通りの管理運営が行われているものと判断する。
- ④ 新型コロナウイルス感染予防対策のため、施設の休館、利用制限、利用の自粛を求めるなどの対応を行った結果、利用率の低下につながったと判断する。

### (2) 今後の課題

- ① 令和 2 年 2 月以降、新型コロナウイルス感染予防対策のため、施設の休館、利用制限、利用の自粛を求めるなどの対応を行っており、引き続き利用率が減少することが見込まれる。

(参考 利用率比較)

集会室

【30 年度 24.5%、令和元年度 24.7%、令和 2 年度 20%】

練習室

【30 年度 70.7%、令和元年度 62.3%、令和 2 年度 49%】

利用件数の増加に向けては、指定管理者の自主事業による施設の周知や活用事業等の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえて中止とせざるを得ず、当初、年間 12 回実施予定のところ 2 回しか実施ができなかった。新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえながら、引き続き、利用率の向上を働きかけていく。

- ② 施設管理・運営については、利用団体からの一定の評価を受け、満足度は高い状況である。昨年度までは、机、イス等の備品に関して、開業当時から使用している物が多く、性能劣化や使いづらさが認められ、それについての改善を求める意見が多くあがっていた。これについては、他施設より使わない備品を譲り受け、一部入れ替えをした結果、利用者からも好評を得ており、利便性も向上した。同じく太鼓についても修繕希望の声が多くあがっているため、引き続き、計画的に修理を行っていくことを指定管理者と協議していく。
- ③ 施設・設備については、今後も経年劣化により不具合が増えることが予想される。常に注意を払いながら早期発見に努めつつ、利用者アンケートの意見等を踏まえて、利用者がより安全・安心を感じ、快適に利用できるよう指定管理者の指導・監督にあたる。